

- 日 時：2019年9月8日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教者：飯島 信 牧師
- 説教題：「わたしたちは主のもの」
- 聖 書：旧約 出エジプト記 23：10-13（p132）  
新約 ローマの信徒の手紙 14：1-12（p293）
- 讃美歌：21-98「みどりの牧場に」 21-518「主にありてぞ」

お早うございます。

昨日は、フランス滞在中にお菓子作りを学ばれたT先生をお迎えしての料理教室でした。T先生をお迎えしたのはほぼ1年ぶりでしたが、初めて参加した方が参加者12名の中の6名を占め、楽しく賑やかな時となりました。メニューは、なすとちりめんじゃこの冷製パスタとブルーベリーケーキでしたが、立川教会のホームページの料理教室の案内を見て、八王子から参加された方もいました。調べてみると、一日平均約50名の方が私たちの教会のホームページを見えています。先週も申し上げましたが、少しずつでも多くの人々を引き付ける内容をと願うのです。

昨日の料理教室ですが、学ぶことができました。

それは、食材を無駄にしないということです。

T先生は、なすとちりめんじゃこを和えたパスタにかけるソースなど、ボールの淵に付いたものを、小さなゴムベラがないので、大き目のゴムベラで丁寧に丁寧に取るのです。まるでほんの少しでも無駄にしないように。「材料は安くは無いので無駄には出来ません」と言いながらです。

そして、八王子から初めて参加された女性も、皮を剥いたなすの内側にほんの少し付いている果肉を、これも又丁寧に包丁で削ぎ落としているのです。

私には、決して出来ない作業でした。

食事を作るとはどういうことか。

丁寧に、少しでも無駄を出さず、忍耐強く……。改めて学びました。

料理教室は、地域に開かれた教会にするだけではなく、私たちの生きて行く人生に大切なものも教えられる場であると思いました。少なくとも、私にはそのような場となりつつあります。

私事で恐縮ですが、昨日は、私の三男の夫婦も、連れ合いの両親と共に参加しました。

彼にとっての義理の父親が10月の料理教室を担当するため、様子を見に来たのです。

今は教会に行っていない彼にとって、教会に足を踏み入れる。しかも、妻とその両親と共にです。この教室が無ければ考えられないことで、嬉しいことでした。

それでは、今朝与えられた聖書の御言葉を見て行きたいと思います。

ところで、改めて思うのですが、この夏私たちに与えられている御言葉は、真正面からキリスト者としての私たちの在り方を問う内容が続いています。先週もそうでした。先々週もそうでした。そして、今日も又、私たちのキリスト者としての在り方を厳しく問うのです。

1節1節、御言葉を噛みしめるように、心を一つにして読みたいと思います。

1：信仰の弱い人を受け入れなさい。その考えを批判してはなりません。

2：何を食べてもよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜だけを食べているのです。

3：食べる人は、食べない人を軽蔑してはならないし、また、食べない人は、食べる人を裁いてはなりません。神はこのような人をも受け入れられたからです。

この1節から3節ですが、ここで言われている「信仰の弱い人」と言うのは、信仰の強さ、弱さを言っているものではありません。「その考えを批判してはなりません」と書いてあるように、自分がこれまで生きて来た環境の中で身に付けた考えから抜け出すことが出来ないでいる人のことを意味しています。そして、この裁き合うことが召し使い同士の間でも起きていたことにパウロは触れます。4節です。

4：他人の召し使いを裁くとは、一体あなたは何者ですか。召し使いが立つのも倒れるのも、その主人によるのです。しかし、召し使いは立ちます。主は、その人を立たせることがおできになるからです

裁き合う召し使い同士の例を出していますが、パウロがここで言いたいことは、一方が良く一方が悪いと言うのではなく、それぞれは同じように神様によって立てられていると言う事実の確認です。そして、さらに具体的な事柄を例に出して行くのです。5節、6節です。

5：ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。

それは、各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきことです。

6：特定の日を重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。

つまり、ここでパウロが問題にしていることは、私たちが日常生活を営む上でのそれぞれの価値観の違いをもって、お互いを裁き合うことです。例えば、自分から見れば理解出来ない生き方をしている人がいるとして、そのことによってその人を裁くことは止めようと言

うのです。最初の 2 節でパウロが記した具体例は野菜だけを食べている菜食主義者（ベジタリアン）のことでした。彼／彼女は、それぞれの理由によって肉を食べません。だからと言って彼／彼女を裁いてはならないと言うのです。

私に即して言いますと、私は、どうしても食べられない物があります。それは動物で、料理してあれば良いのですが、形がそのまま残っている物がダメなのです。どんなに美味しいと言われても手を付けません。そのことによって差別されたことはありませんが、肩身の狭い思いをしたことはあります。

又、当時は、幾つもの記念すべき日があり、自分が育った環境によって、それぞれの特定の日に対する重い軽いが人によって異なりました。しかし、その違いをもって裁いてはならないと言うのです。

その理由は何でしょうか。

それは、どれだけ自分とは生活上の違いを感じ、あるいは価値観の違いを覚える人であったとしても、その人が神様を信じ、神様の御心を尋ね求めて人生を歩んでいるなら、そのような違いなど全く問題にならないからです。なぜなら、今こうして教会に集い、共に礼拝を守っている私たちは、7 節、8 節です。

7：わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれひとり自分のために死ぬ人もいません。

8：わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。

今日与えられた御言葉の中心テーマです。

この 7 節と 8 節は、お互いに裁き合う者たちに対し、キリストを見よとの勧めです。

もし、裁きたくなる自分がいれば、その時、目を高く上げ、相手ではなく、キリストを見なさいとの勧めです。

何故なら、9 節、

9：キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。

キリストは、私たちが生きている時も、死んだ時も、共にいて下さるからです。生と死と、その全てを支配されているお方、それが主イエス・キリストなのです。

そのようなお方を神様から与えられていながら、10 節、

10：それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。

そして、パウロのまとめの言葉、11節、12節です。

11：こう書いてあります。

「主は言われる。

『わたしは生きている。

すべてのひざはわたしの前にかがみ、

すべての舌が神をほめたたえる』と。」

12：それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

この夏、私たち一人ひとりに問われているのは、私たちの生も死もその全てを支配しているキリストをしっかりと見つめることだと思います。特に人との関わりで何か問題が起きた時、相手を裁くのではなく、まず神様によって自分は裁かれる存在であることを思い知って、キリスト仰ぎ見ることを聖書は私たちに教えているのだと思います。

この御言葉を受け、私たちは、そして私は、どこに家を建てるのでしょうか。

砂の上でしょうか、岩の上でしょうか。

神様は、私たちの選び取る道を見ておられます。

祈りましょう。